

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
地 方 自 治 ・ 地 方 行 政		
自治のどこに問題があるのか 実学の地方自治論	野田 遊	日本経済評論社
社 会		
これからの公共政策学 1政策と規範	佐野亘・松元雅和・大澤津	ミネルヴァ書房
これからの公共政策学 2政策と行政	佐野 亘(監修) 山谷清志(監修)	ミネルヴァ書房
教 育		
「学び」をとめない自治体の教育行政	朝岡幸彦(編著) 山本由美(編著)	自治体研究社
教育は社会をどう変えたのか 個人化をもたらすリベラリズムの暴力	桜井智恵子	明石書店
教育の自律性と教育政治 学びを支える民主主義のかたち	荒井文昭	大月書店
地域と世界をつなぐSDGsの教育学	寺崎里水(編著) 坂本 旬(編著)	法政大学出版局



花を楽しむ



はじめまして。4月から議会図書室に配属となりました。初めての仕事で不慣れな事ばかりですが、頑張りますので、よろしくお願いします。

ところで、「皆さんは、今年お花見に行かれましたか？」

私はお花を見るのが好きで、よくお弁当を持ってお花見に行きますが、今年は気温の低い日が多かったこともあり、桜のトンネルを通り抜けるだけになりました。

さて、お花見と言えば、桜をイメージする方が多いと思いますが、万葉の昔は、中国由来の梅がお花見の主役だったそうです。時は流れ、平安時代に入り、次第に桜が好まれるようになったとのことです。

お花見が広く庶民に広まるきっかけを作ったのは、和歌山にも由来の深い江戸幕府八代将軍徳川吉宗と言われています。享保2年(1717年)に江戸東部の隅田川縁へ桜を植樹し始めたのをきっかけに、江戸にたくさんの桜の名所ができたのです。

もしかすると、何百年後かには違うお花がお花見の主役を奪っているかもしれません。それでも、きっといつの時代でもお花を見ることで、心を豊かにしてくれることに変わりはないと思います。

私は、昨年初めてカキツバタとアヤメの旬な時期に養翠園を訪れました。養翠園は、紀州藩十代藩主徳川治宝が、水軒川の河口に西浜御殿の別邸として造営した池泉回遊式庭園となっています。その庭園に咲くカキツバタやアヤメは、凜としたたたずまいで桜やツツジに比べると百花繚乱とはいきませんが、静かでゆっくりとした空気感が普通の喧騒を忘れさせてくれました。カキツバタやアヤメは5月が花見頃となりますので、これからの季節におすすめです。

和歌山にはたくさんのお花の名所があります。私は、カキツバタやアヤメの次は和歌山城の鶴の溪にアジサイを見に行きたいと思っています。皆さんも、その時々のお花を見ることで心をリフレッシュしてみませんか？

